

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション喜多町
所在地	(〒 940 - 2121) 新潟県長岡市喜多町2900番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
住み慣れた地域で、自分らしく暮らせるよう支援していく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2021 年 9 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021 年 11 月 17 日	出席人数 (合計)	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (2人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2人) <input type="checkbox"/> 利用者 (1人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (2人) <input type="checkbox"/> その他 (9人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別研修計画を理念を基に計画を立て資質向上に努める。 ・個々の個別研修の成果を情報共有し、技術向上を図る。 ・新型コロナウイルス感染症（新たな感染症）が出た場合の、具体的な対応の検討しシュミレーションを行い実践に生かす。 ・事業所の活動が分かりやすい資料を作り、推進委員の皆様により深く事業所を知って頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の目標に沿って学ぶ。 ・外部研修（2名）法人研修(1名)に参加。 ・ガウンテクニックを学び、感染対策に努めて訪問した。 ・外部評価をしやすいような資料づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期が終わり、個別研修計画の中間評価を行い、目標達成に努めている。 ・11月頃から研修の参加を始めたので、ミーティング時に研修内容・感想を報告している。 ・感染対策をした上での訪問は、身につけてきた。実際に陽性者が出た時のマニュアル（BCP）の確認をした。 ・資料に説明文を追加し、会議に参加できなかった人にも、わかりやすいように工夫した。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の能力を引き出し、自立支援に向けた提案が行えるように努める。 ・その人らしい暮らしができる様に、自立に向けた計画を作り、モニタリング後のサービスの改善に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の出来る事に着目しケース検討を行った。 ・サービスの見直しをケアマネに提案し、新たに計画書を作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会を行うことで、意見の出し方を学び、自立支援に向けた提案の方法を学んだ。 ・モニタリングの基本を再度学び、計画書に沿って評価し、援助に反映できるように努めた。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所ミーティングを少人数のグループで行うことで意見を出しやすくし、まとめ・報告する力をつける。 ・ICTを活用し、多職種が必要とする情報を共有することで、サービスの質の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のミーティング開催 ・ICTの活用方法検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・主のミーティングに参加できない職員からも意見をもらい、会議録にて最終報告とした。 ・Teamを活用し、職員間での情報共有を強化し、情報の見逃しがないように工夫し、多職種での情報共有にも活かした。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方へ定期随時の理解を深めてもらう為に広報誌を強化する。 ・コロナ禍で、新しい生活様式が求められる中、新たな地域との関り方を推進委員の皆様の意見を頂きながら進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日赤病院での定期随時のデジタル広告放映 ・推進会議の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への広報活動が弱かった。広報の仕方を検討し、来年度へ繋げる準備をしている。 ・2年ぶりの推進会議の開催をし、意思疎通がスムーズに行えた。顔の見える関係が大事だと改めて実感した。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調変化時、緊急時、災害時、的確に判断できるように、研修、ミーティング等通じて技術向上を図る。 ・ご利用者の声をお聞きし、自分らしく暮らせているか計画書に沿ってアセスメントを行い、安心して在宅生活が継続できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所ミーティングで確認 ・日々の利用者の声をお聞きする 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを確認することで基本を学んだ。 ・在宅生活が継続できるように支援してきたが、介護者の都合もあり、施設の空きがでて入所となるケースが多かった。 ・利用者・ご家族に満足度調査実施予定。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の目標に沿って、ミーティング・研修等に参加し、技術向上ができています。目標達成に至らなかった職員は次年度への課題としていく。 ・外部研修は新たな情報が得られるので、できる限り参加して行きたい。 ・事業所で感染者は今のところ出ていないが、他サービスが利用できないことでヘルパーへの負担が大きいと感じた。新たな情報・状況に対して、早期改善していく必要がある。 ・資料をわかりやすくすることにより、外部評価をしやすくなるよう心掛けた。多くの方から貴重なご意見をいただくことができ、今後活かしていきたい。 	<p>研修・ミーティングを通して理念・運営方針・業務目標を明確にし、理解した上で業務を遂行し、事業所全体のケアの質の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の個別研修の成果を情報共有し、技術向上を図る。 ・新型コロナウイルス感染症（新たな感染症）対策のシュミレーションを行い、状況に応じた対応ができるようにする。 ・事業所の活動が分かりやすい資料を作り、推進委員の皆様により深く事業所の活動内容を知って頂く。
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会を行うことで、「できること」「できないこと」を見極め、他の利用者に対しても、積極的に意見がでるようになった。 ・計画書に沿ってモニタリングすることにより、自立に向けた援助・計画書の見直しに繋がった。 <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングで意見を出し合う事で、業務改善や利用者の安定した生活にも繋がるので、今後もミーティングを大事にしていきたい。 ・ICTの活用で情報共有の連携強化というところでは、多職種と迅速に情報共有ができ、サービスの質の向上に繋がった。現在のICTのシステム上では、特記事項が多いと大事な情報を見 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調変化に対し、早期対応、援助（計画書）の見直しを行い、状態悪化を防ぐ。 ・その人らしい暮らしができる様に、職員間で共通認識を持ち、自立に向けた支援に取り組む。 ・事業所ミーティングを少人数のグループで行うことで意見を出しやすくし、まとめ・報告する力をつける。 ・ICTの活用方法を工夫し、多職種が必要とする情報を共有することで、サービスの質の向上につなげる。

		逃してしまうこともあり、更に改善策が必要。	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度広報誌での情報発信ができなかったのが、地域へ向けて定期随時への理解を深めてもらうような情報を発信していきたい。 ・今回会議が開催でき、顔の見える関係は大事だと思った。コロナ禍での開催方法を検討していかなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方へ定期随時の理解を深めてもらう為に広報誌を発行する。 ・コロナ禍での推進会議の開催方法、地域との関り方を推進委員の皆様の意見を頂きながら進めていく。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)		<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの確認は基本を学ぶよい機会になったが、実際にマニュアル通りに実践できるのか確認していく必要がある。 ・コロナ禍での世の中の動き、地域の動きに合わせた対応が求められると感じた。在宅サービスとしての役割をしっかりと見極めていきたい。 ・日々のご利用者の声を聞き、その都度希望に添えるように努めた。アンケートでもご意見を頂き今後の事業に反映させ、より安心感のある在宅生活に繋げていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の体調変化時、緊急時、災害時等において、的確に判断できるように、研修、ミーティング等通じて技術向上を図り実践につなげていく。 ・ご利用者の声をお聞きし、自分らしく暮らせているか計画書に沿ってアセスメントを行い、安心して在宅生活が継続できるよう支援する。